

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

果樹カメムシ類のヒノキからの離脱時期について

本年の果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ新世代成虫）のヒノキからの離脱時期（果樹園への飛来開始時期）は、9月2半旬頃からと予想されます。

園内への飛来状況の把握に努め、適期防除を行うよう指導願います。

技術情報第3号

- 1 対象作物：果樹全般（ナシ、カキ、カンキツ等）
- 2 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）
- 3 ヒノキからの離脱時期：9月2半旬以降（早い地域では8月6半旬以降）
- 4 7月4半旬までの発生概況：チャバネアオカメムシの越冬量は2016年並であり、ヒノキ球果着生量は2016年より多く、本年にやや類似する2013年より少なかった（表1）。

表1 チャバネアオカメムシの越冬量とヒノキ球果着生量

年 (発生型)	2013 (後期)	2016 (後期)	2018 (前期)	2019 —
チャバネアオカメムシ越冬量(頭/㎡)	0.7	0.8	3.8	0.8
ヒノキ球果着生量	中 4.1	やや少 2.8	中 4.4	中 3.6

注1) 発生概況、ピーティング調査等を総合した類似年を赤字で囲んで示している。以下の表も同じ。

注2) 越冬量(34地点、1月初～末調査)は常緑広葉樹林落葉下の越冬成虫数(1㎡当たり)

注3) ヒノキ球果着生量(28地点、5月5半旬～6月2半旬調査)は極少を1～極多を7として算出

5 7月5半旬の予察調査結果

(1) ヒノキ球果の口針鞘数と被害球果率

14地点の1球果当たり平均口針鞘数と被害球果率は、前期発生型の前年より少なく、後期発生型の2016年並であり、離脱予測時期は早いところで8月6半旬、平均で9月2半旬である（表2、表3）。

表2 ヒノキ球果着生量、ヒノキ球果における口針鞘数

年 (発生型)	2013 (後期)	2016 (後期)	2018 (前期)	2019 —
ヒノキ球果口針鞘数(本/球)	0.7	1.9	7.3	1.5
被害球果率(%)	27.1	47.0	91.8	50.4
ヒノキからの離脱予測時期	9月3半旬	9月2半旬	8月4半旬	9月2半旬

注) ヒノキからの離脱予測時期は、各年とも7月5半旬の口針鞘数から算出したもので、実測値ではない

表3 ヒノキ球果口針鞘数とヒノキからの成虫の離脱予測時期

調査地点		ヒノキ球果		新世代成虫の 離脱予測時期 (月/日)
		口針鞘数 (本/果)	口針鞘が認められ た球果の割合 (%)	
朝倉	筑前町 炊田	1.4	75.0	9/11
	朝倉市 長谷山	2.1	65.0	9/8
	朝倉市 宮野	1.9	60.0	9/9
	朝倉市 杷木 志波	0.4	30.0	9/14
	平均(4ヶ所)	1.4	57.5	—
久留米・ うきは	久留米市 田主丸町 森部	2.9	95.0	9/4
	うきは市 吉井町 福益	0.7	45.0	9/12
	うきは市 吉井町 屋部	0.2	15.0	9/14
	平均(3ヶ所)	1.2	51.7	—
八女	八女市 黒木町 野田山	0.2	15.0	9/14
	八女市 飛形山	2.7	70.0	9/5
	みやま市 山川町 立山	0.7	25.0	9/12
	平均(3ヶ所)	1.2	36.7	—
福岡・ 塚・京築・飯	糸島市 本	0.8	50.0	9/11
	宗像市 山田	1.3	55.0	9/9
	飯塚市 山倉	4.5	60.0	8/30
	みやこ町 犀川木山	1.5	45.0	9/10
	平均(4ヶ所)	2.0	52.5	—
平均		1.5	50.4	9/9

注1) 新世代成虫のヒノキからの離脱予測時期は、口針鞘数が25本に達する頃

予測式($Y=54.17-3.776X+0.01937X^2$ Y: 球果採取日～離脱までの日数 X: 口針鞘数)を用い算出

注2) 1地点当たり20球果調査

(2) ヒノキ球果のビーティングによる捕獲成幼虫数

14地点の1地点当たりの捕獲成幼虫数は、前期発生型の前年より少なく、後期発生型の2016年並であった。

1 地点当たりの平均成幼虫数

チャバネアオカメムシ : 2.5頭 (前年 14.7頭、2016年 3.0頭、2013年 3.3頭)
ツヤアオカメムシ : 1.9頭 (前年 7.3頭、2016年 0.4頭、2013年 0.5頭)
クサギカメムシ : 0.4頭 (前年 1.6頭、2016年 0.1頭、2013年 0.1頭)

6 防除上注意すべき事項

(1) 本年は後期発生型と考えられる。

また、現時点での類似年は2016年であるが、後期多発してカキ等に被害を及ぼした2013年ともチャバネアオカメムシ越冬量・成幼虫数やヒノキ球果着生量等は類似している。このため今後の発生状況に注意し、病虫害防除所ホームページの「病虫害の発生状況」を参照する。

(<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html>)

(2) 果樹カメムシ類の飛来時期は地域により異なる。

また、同一園内でも被害発生状況は偏りがあるため、園内全体を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。

(3) 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。

(4) 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。

(5) 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。

○病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病虫害防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病虫害発生状況